

（2）発震機構（注2）

1980年以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の張力軸の分布を図2-1に示す。また、図2-1の領域b内の地震の発震機構の型の分布及び張力軸の向きの分布を図2-2に示す。

今回の地震の震央付近（領域b）の発震機構の分布をみると、ナスカプレートの傾斜方向（概ね東西方向～西北西－東南東方向）に張力軸を持つ地震が多く発生している（図2-1）。今回の地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

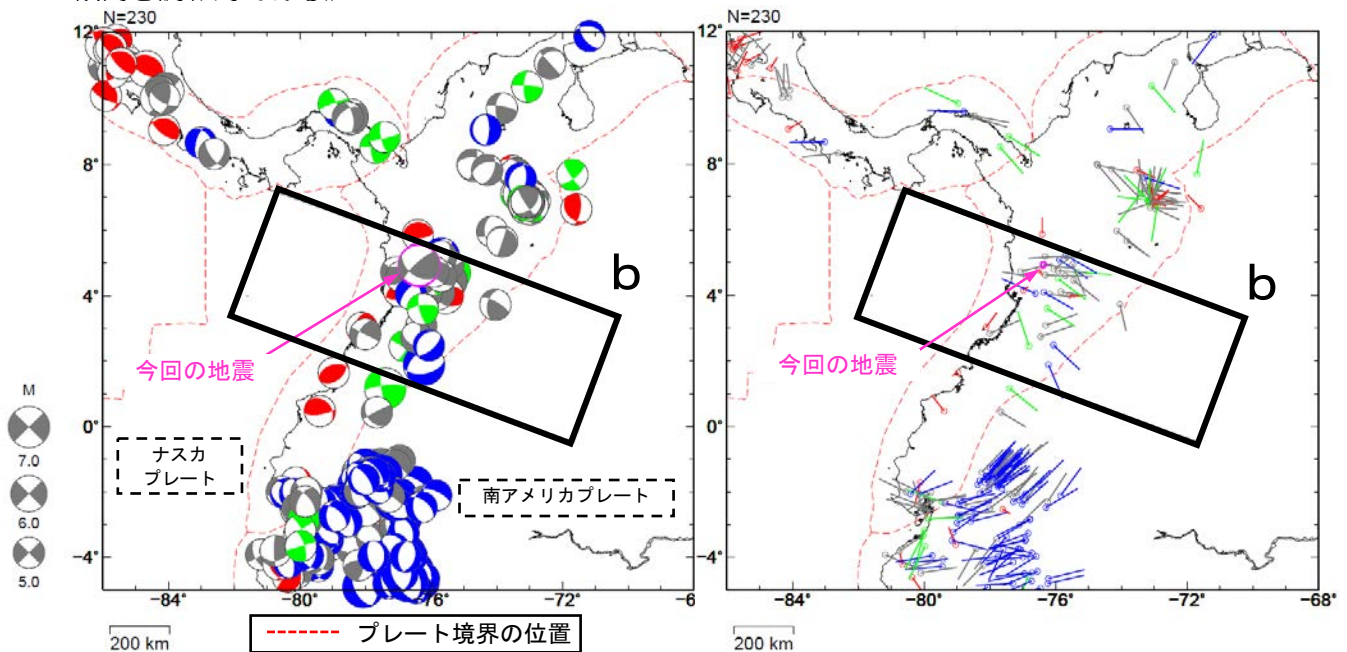


図2-1 発震機構分布図（左）、発震機構の張力軸の分布（右）

（1980年1月1日～2026年8月31日、深さ50～300km、 $M \geq 5.0$ ）

逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。
ピンク色の丸囲みで表示している地震は今回の地震

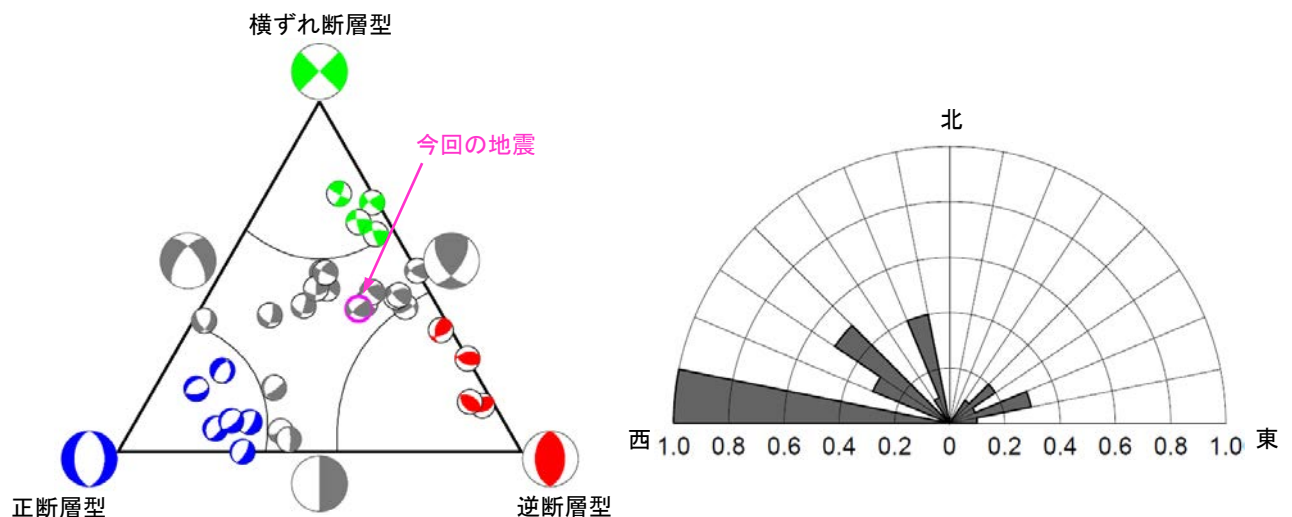


図2-2 図2-1の領域b内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の張力軸の方位分布（右）

（1980年1月1日～2026年8月31日、深さ50～300km、 $M \geq 5.0$ ）

逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。
ピンク色の丸囲みで表示している地震は今回の地震

（注2）震源要素及び発震機構は、2026年8月10日の地震は気象庁によるCMT解、それ以外の地震はGlobal CMTによる（2026年9月1日現在）。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

*1参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.